

- 本県有機農業は、お茶の輸出(有機JAS)が活発で、作付面積や農家戸数は着実に増加。この世界品質の有機茶と併せて、野菜や果樹の収益性や安定生産技術の確立、普及による取組面積拡大が課題
- 県内における有機農業技術等の課題整理、研究プロジェクトや現地実証に対する支援、情報の発信、技術マニュアルの作成の取組を実施
- 令和元年の目標であった、「有機栽培取組面積の経営耕地面積に占める割合を1.3%にする」をクリア

具体的な成果

1 有機農業技術等の課題整理

- 実態調査による課題整理
有機栽培農業者は
病害虫対策、雑草対策、土づくり
に強い関心

2 現地実証等の支援

- 地域振興局に対する支援
- 試験研究機関に対する支援

3 有機農業技術確立と情報発信

- 有機農業技術マニュアルの作成
(栽培編H30, 経営編R2)
- 有機農業技術などの継続的な情報発信
(1回発信/年)



有機農業技術マニュアル(栽培編, 経営編)

4 有機農業の取組面積の拡大

- 有機農業に取り組みやすい技術などの確立、普及活動により、有機栽培面積が増加
- 有機栽培取組面積の経営耕地面積に占める割合
目標: 1.03%(806ha) (H27) → 1.3%(R元年)
実績: 1.52%, (1,070ha) (R2年5月)

普及指導員の活動

平成30年度

- 実態調査による課題整理
- プロジェクト研究への助言, 実証ほ支援
- 有機茶生産技術の実証ほ支援
- 有機農業情報誌の発行
- 有機農業技術マニュアル(栽培編)の作成

令和元年度

- プロジェクト研究への助言, 実証ほ支援
- 有機野菜, 果樹の課題抽出, 実証ほ支援
- 有機茶生産技術の実証ほ支援
- 有機農業情報誌の発行



令和2年度

- プロジェクト研究の成果情報の発信
- 有機野菜, 果樹の課題抽出, 実証ほ支援
- 有機茶生産技術の実証ほ支援
- 有機農業情報誌の発行
- 有機農業技術マニュアル(経営編)の作成

普及員だからできたこと

日頃から農業者と信頼関係を築いている普及員だからこそ、有機農業者が自ら長年苦勞して確立してきた栽培技術や普及員とともに行った実証試験をもとにマニュアルが作成できた。今後、本マニュアルは新規に有機栽培に取り組む農業者をサポートするものとなる。